

2020年度 大阪府高校放送コンテスト 決勝大会 番組部門 審査結果及び講評

部門	審査順	学校名	作品名	結果	講評
ラジオ ドキュメント	1	四天	もう一度	1位	タイムリーな話題を扱い、高校生の思いがまっすぐ伝わる作品だが、箏曲やコーラスの実際のパフォーマンスの音を入れるなど構成上の工夫がほしい。タイトルも興味を持ちやすいものを考えてみよう。ナレーションやBGMの大きさなど細かな点にも注意を払ってみよう。
	2	成美	誇りをもって	2位	ハンズ先生のキャラクターを冒頭でもう少し描いた上で本題に入った方が聞きやすい。素材そのものはユニークだが、伝えたいことがわかりにくい。インタビューでハンズ先生の声はたくさん引き出せていたが、一人語りのようにってしまった。工夫の余地がある。
TV ドキュメント	1	阪南大	臨時休校 —そのとき高校は—	1位	学校側の動きを先生方へのインタビューを通して明らかにする試みは成功している。テーマとしてはもっと絞ったほうが良い。生徒の声をもっと取り入れるなどの工夫がほしかった。カメラの固定や音のバランス、背景といった技術的な部分も注意しよう。
	2	箕面	ブラック高校生	2位	アンケートなど情報量が充実しており、編集もうまくできているが、内容とタイトルがずれているのが気になる。円グラフの回数を絞る、先輩への取材電話の映像の工夫など、ビジュアルの要素でも改善の余地がある。
ラジオ ドラマ	1	今宮工	ドッペルゲンガー	1位	作りも丁寧でわかりやすく、心理の奥に迫った興味深い作品だった。制作上の工夫としては、声による演じ分けが必要。ラジオドラマには画がなくてわかりにくいので、過去を何回もインサートする構成は避けよう。
	2	金剛	魔法のブレスレット	3位	着眼点がユニークで、巧みな演技やストーリーの面白さが伝わる作品だった。みゆきの思いや考えの変化もよくわかった。制作の中で高校生らしさや学生生活の目線が乏しいのが気になる。BGMをもう少し使って雰囲気や場面の違いを出そう。
	3	箕面自	白恋	2位	ユニークな設定で面白く、完成度の高い作品だが、高校生としての問題意識がほしい。内容としては、キツネの子がなぜ人間界に憧れたのか動機がよくわからなかった。
	4	今宮工	マリオネット	入選	マリオネットの意味はわかったし、面白いが、伝えたいテーマがわかりにくかった。内容的には友達と恋との「違い」の微妙なところをもう少し描いてほしかった。制作の中でBGMとシーンが合致しているかなどの点にも注意を払ってみよう。
TV ドラマ	1	箕面自	ハートブレイク	2位	細かなところを含めて工夫された作品だが、内容の構成上「死」を扱わなくても成立する話ではないかと思われる。特に亡くなったことを伝えるシーンなどで、リアリティに欠ける部分があったので気を付けよう。
	2	槻の木	差し伸べられた掌	1位	話の構成としては成立しているが、テーマや高校生としてのメッセージが伝わりにくくて残念だった。カット割りの工夫がなされているが、無駄なシーンや絵が多いのがもったいなかった。